

時間とともに深みがでてくる住宅に

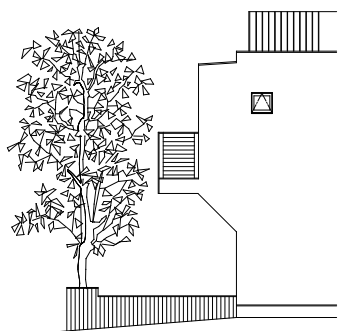


竣工後1年



樹木が生長し落ち着きができたファサード
ランドスケープにすっかり溶け込んで来ている

ランドスケープに 溶け込むような 住宅を



竣工前の状況
若々しいが周囲との調和は……

千早の家



敷地条件

池袋から西へ2kmほどいった第一種低層住居専用地域の住宅地。
前面道路幅は5.45mで道路及び隣地との高低差はない。
間口は6.0m、奥行きは18mの典型的なうなぎの寝床型敷地である。
周囲の環境など都内にあるごくごく一般的な住宅地である。

施主からの要望

- ・機能的でシンプルな間取りをしたい。
- ・家族が集う部屋は、明るく開放的で風通しの良いものになりたい。
- ・屋上は緑化し、屋上庭園として利用したい。
- ・ファサードは手作り感があり、温かみのあるデザインをしたい。



設計プロセス

明るく開放的なLDKと屋上庭園は絶対条件であり、さらに南北に長い敷地のため、暗くなりがちな北側の部屋に採光と通風がとれるようテラス（中庭）を設けることにした。テラスの位置は二転三転したが、ほぼ最終的なプランに落ち着いた。

1階は各寝室、2階はテラスを挟んで和室まで含めた大きなワンルーム、屋上は自然を楽しめる空間となる。1階はプライベートな空間であり、2階は家族団らんの空間、そして屋上は仲間を呼んでバーベキューのできる空間。つまり螺旋階段で上方に行くほどにパブリックな空間となっている。

ところが、当初想定していたRC造もしくはS造での施工が2008年に起こった原油の高騰に始まる建設資材の高騰により、当初予算をクリアできなくなってしまった。

そこで、ほぼ固まっていたプランをなるべく生かすかたちで構造を木造に変更した。

2階のLDKからテラス、螺旋階段、トイレに及ぶ空間は29帖の大空間であるが、この空間を生かすため耐力壁の位置を考慮し、さらに耐力壁の不足に対してはキッチン横に柱を2本立て、ブレースを設けることで、これを解決した。

ファサードは幅5mの両面のみであり、プランから生じる形態からでは、ありきたりのファサードとなってしまう。そこで、デッキバルコニーの側面にセラガンバツ材を密に縦張りすることにより、柔らかい木の面を作り出し、ひとつのデザインとして仕上げることにした。さらに、アプローチ部分にも同材を使用することでファサードに一体感を持たせ、またシンボルツリー（シマトネリコ）を植えることにより温かみのあるファサードを作り出した。